

# 医局だより



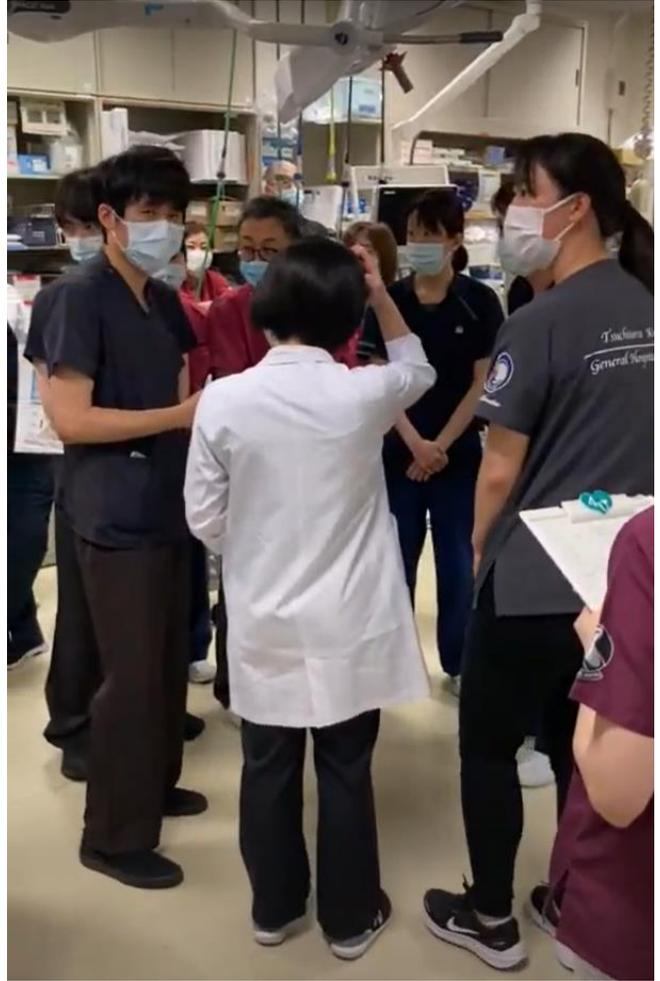
## スーパー母体搬送シミュレーション

みなさん、お元気でしょうか？

6月になり梅雨入りが発表されました。じめじめ、むしむし…が始まり、これからうなぎのぼりに気温も上がるのかもしれませんが、今年の夏も暑いんだろうな、と覚悟はしておりますが、今年は大変なことに電気代が高騰しているようです！大学では節電対策をしており、冷房は高めの温度設定を！とのことです。最近ではハンディファン、ネッククーラーなるものもあるようですが、ガンガンの冷房に頼れない真夏を乗り切るために、今のうちに対策を練っておきましょう！

節電対策、暑さ対策も大事ですが、私たちにとってはかなり重要なスーパー母体搬送シミュレーションが先日行われました。すごく前に（2018年7月号その2）超緊急帝王切開のシミュレーションについて記事を書きましたが、今回は産後出血の母体搬送のシミュレーションです。そうそう何度もあることではありませんが、不慣れな点が多いからこそ、いざ！というときにスムーズに動いて対処するための大事な備えです。

今回は、我々産婦人科、救命救急センター、新生児科、麻酔科、産婦人科看護師、救急外来看護師、手術室…などとの大きなコラボとなりました。産後に大量出血が起こり、母体搬送されてきた褥婦さんへの対応という設定でシミュレーションを行いました。



左上、右上、下の順にシミュレーションの様子です。①産婦人科病棟に母体搬送の依頼の電話が来ました。②救急科の先生と連絡をとり、救命救急センターへと移動し打ち合わせを行っています。③搬送された褥婦さんへの対応を、救急科を含め複数の部署のスタッフで連携して行います。

産婦人科からは、牛木先生がコマンダーとなり、レジデントの小松先生、近藤先生が実際に動いてくれました。



終了後の意見交換です。比較的スムーズに様々な処置を進めていたようにみえましたが、各方面から意見が飛び交いました。私たち産婦人科医は、診察して出血の程度や状況をわかっているにもかかわらず、産婦人科の病態に慣れていない救急科の医師・看護師にとっては不安が大きいようでした。現在の状況や今後の見込みについて、多少間違っているとしても伝えて、みんなで現状把握をすることが大事ということがわかりました。また、目の前の処置にみんなで集中しがちですが、俯瞰して指示するコマンダーの役割の重要性にも気づきました。あと、基本的

なことではありますが、『伝えるときは大きな声で！』がとても重要だと再確認しました！



みなさん、とても真面目に意見交換会に参加しております！ そんなおごそかな雰囲気の中、ひさびさの大イベントに広報担当として腕がなり、パノラマ写真を撮ってしまいました。左端で微妙に引き伸ばされてる関口先生と、中央奥でスマホをいじってる高尾先生が気になってしまう私ですが、圧巻の写真に大満足です！



また医局の様子を実感できるような記事を書きますので、是非ホームページに遊びにきてください！

夏休みなど利用した見学も随時募集しております。お気軽に連絡ください！

→ 卒後臨床研修実務者 若菜公雄先生

[k.wakana.crm@tmd.ac.jp](mailto:k.wakana.crm@tmd.ac.jp)

2022年6月17日

文責：廣瀬 明日香